

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 324 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2011.12.01（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1190 部\*\*\*\*\*

□ 目次 □-----

<巻頭言> 自由貿易の幻想 渡邊 博

<山崎農業研究所 第 141 回定例（現地）研究会>

速報（要旨） その 1——実験圃場の概要

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

<編集後記> とるに足らないことが実は大事なのでないか

---

<巻頭言> 自由貿易の幻想

---

山崎農業研究所の現地研究会の案内役として、久しぶりに被災地を訪れた。9月までは、農地に瓦礫が散乱していたが、今ではほとんど瓦礫も片付けられて、ちょっと見には復興もだいぶ前進したかに見える。しかし、津波によるヘドロはまだ堆積したままであり、放置された民家、乗り上げた漁船、なぎ倒された防潮林等、いたるところに震災の爪後は残っている。なにより、地元の農家の方の言葉が、まだ何も前に進んでいないことをうかがわせる。「震災直後は気が張って少しでも前へ進もうと頑張ってきたが、時間が経って落ち着いて考えると、将来の不安がよぎって何も前向きに考えることができない」。

日本は TPP 協議に参加を表明した。足腰の強い農業を育成するいい機会だと。円高は消費者にとってはチャンスだと。冗談じゃない。ただでさえ足腰が弱っているのに、である。そもそも自由貿易は必要なのか。安い労働力を求めて外国に生産基地を移したり、安い外国の生産物を輸入すれば、国の、地域の雇用機会は失われ、地域の消費力も喪失するのは自明だろう。雇用機会が喪失して何が消費者のためだ。消費者は生産者でもあることを忘れたのか。いや、ここでいう消費者とは、外国から安い労働力や物を買える特別な人たちだということ忘れていた。そうなのだ。円高も、TPP もこの人たちのためのものなのだ。大多数の国民は生産者どころか消費者ですらないのだ。

人の営みは地産地消が本来のあるべき姿だと思う。食や農業だけではない。文化も、あらゆる産業、経済活動も、地産地消が基本であり、貿易で足りないものを相互に補完するべきはずのものではないか。貿易が先にあれば、為替が商売の種になる。自由に飛び交う資本が商売の種になる。本来絶対的であるはずのお金が商品に化けたことによって世界の不幸が始まっている。リーマンショックもEUの経済危機も根っこはここにある。我々はもっと利口にならなければ。「改革」という口当たりのよい旗印の陰に、相も変わらず新自由主義の亡霊が潜んでいるのを見破るために。

渡邊 博

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<山崎農業研究所 第141回定例(現地)研究会> 速報(要旨) その1

期日:2011年11月25日(金)

場所:宮城県下 山元町および名取市

テーマ:震災被害地の状況視察とその取り組み、および復興への方向性を探る

参加者:17名

---

仙台駅前に参集し、貸切バスで移動した。行程は、最初に山元町で(1)実験圃場の視察、(2)夢いちご生産組合の栽培ハウスを視察。その後、亘理町などの被害状況を見つつ名取市へ入り、(3)名取川排水機場被害を視察、(4)宮城県農業・園芸総合研究所で農業の早期復興に向けたプロジェクト研究や計画について説明を受け、意見交換をした。

#### ■速報(要旨) その1——実験圃場の概要

場所は山元町。圃場面積50m×90mの水田に小試験区(20m×15m)を設け、条件を変えて除塩の試験を行っている。現場は幹線排水路に近いが、地下水位は田面下20cm程度と高く、暗渠を入れても効果は低いと思われる。除塩は非湛水方式によっている。

対照区(処理を行わない区。ほぼ裸地)に対し、処理区として除塩作物区(ソルガムを作付け)、心土破碎区、排水改良の土壌改良材区、塩分吸着材区、

改良材+除塩作物など試験区を、さらにヘドロ鋤込み、ヘドロ剥取りなどの条件を変えて除塩効果を調べている。また、別に隣接のヒエが自然に生えてきた圃場を雑草区として除塩効果を調べている。

これまで分かった範囲では、対照区および心土破碎区は1ヶ月後に共に下層土に向け塩分は大きく移動した。その結果、表層土の塩分濃度は低下して、下層（心土）は大きく増大した。他の処理区の何れでも表土には大きな塩分低下が見られた。その中で改良材+除塩作物区が高い効果を示した。

現状の結論として、(1)無対策では塩分は下方に浸透集積する。(2)雑草や除塩作物は下層に浸透した塩分を吸収している。(3)塩分吸着材、土壌改良材は全層にわたって除塩効果の高いこと、が分かった。

(文責：安富・石川)

---

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.126』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

アグロノミストとして、太陽エネルギーの利用を考える◎塩谷哲夫

[第138回定例（現地）研究会]

小川光氏 山崎記念農業賞を祝う会

研究会——ものづくり・ひとづくり・むらづくり をめぐって

参加者の声 成尾和浩／永井智一／若松美香／益永八尋

[第139回定例研究会] 循環型社会と農業——とくに畜産との関係から

I 安全・安心こそいのち——牛飼い雑記◎峯村富治

II 有機性資源の循環利用による土の健康

——総合的養分管理の重要性◎松村昭治

[第140回定例研究会] 蘇れ、山と森と林

I 荒れ山を逆にとれ！ 木のある暮らしの実践と楽しみ方◎大内正伸

II 荒れる人工林：森林管理から木材利用まで林業再構築をめざして◎鋸谷 茂

〈連載〉 畦道・赤トンボのナショナルリズム [17]

科学とナショナルリズム／宇根 豊

---

<編集後記> とるに足りないことが実は大事なのではないか

---

先日、参加している環境 NGO ちびっこ探検隊で餅搗きをやるというのでこのこと出かけてきた。

環境 NGO ちびっこ探検隊

<http://blog.livedoor.jp/bufobufojp/>

餅搗きには全面的に地元の農家である高野さんにお世話になった。蒸籠やプロパンガスや臼や杵やらの道具一式の手配だけでなく、糯米の提供、前日からの糯米の浸漬、さらにはプロ級の腕前をもつ搗き手さんまで呼んでいただいた。

作業の合間に高野さんと話す。「このあたりの田んぼでも、作り手のいない田んぼがぼちぼち出始めているよ。オレは 60 歳過ぎたくらいだからあと 10 年はやるつもりだけど、その後はわかんないよ…。米の関税っていま 700%以上でしょう。TPP が実施されたら米をつくる人ってどうなるのかなあ」。そんなふう

に高野さんは語る。

高野さんには直接話せなかったのだけれども、TPP が実施されたらたぶんこのような餅搗きはなかなかできなくなるのだろう。もちろん特定の産地で効率的に作られた、あるいは外国産の糯米をつかって搗くというのならそれはそれとして可能だろう。だが、身近にいる米の作り手と相対して、いろいろと教わりながら、ともに会話を交わしながら、互いの笑顔を見ながら餅を搗く…というのはたいそうむずかしくなるのではないか。

米をつくる、そのために田んぼを維持する、そして餅を搗く…個別の行為として見れば、それらを「とるに足りない小さなこと」と言う人もいるだろう。がしかし、文化とは、一見とるに足りない小さいこと・ものとそれをめぐる自然と人間との関係の積み重なったもの、そんなふうにも言えるのではないか。そして文化の厚みとは、それにかかわる人と自然の多様性にふかくかかわっているのではないか。

2011年12月01日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売  
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』  
(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 324 号の締め切りは 11 月 28 日、発行は 12 月 01 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 324 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2011.12.01（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』\*\*\*\*\*